

津田サイエンス まちづくり協議会ニュース

発行所
津田サイエンスヒルズ
まちづくり協議会
〒573-0128
枚方市津田山手2-9-5
大阪大学内
TEL (072) 858-5901
FAX (072) 858-5904
(題字：墨アーティスト 植笠 幸三 書)

第二京阪道路(緑立つ道)

22年3月開通予定!

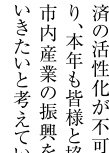
第二京阪道路は、京都と大阪を結ぶ延長約28.3kmの道路であり、一般国道1号の慢性的な渋滞の解消を目的とした6車線の自動車専用道路と2+4車線の一般道路からなる一般国道1号のバイパス。本道路は「緑立つ道」の愛称で親しまれるなど、環境や景観に配慮した道路となっており、久御山ジャンクションと門真ジャンクション(仮称)を結び、名神高速道路や京滋バイパス、近畿自動車道などと連携して広域幹線道路網を形成している。また、世界

新年のご挨拶



枚方市長
竹内 脩

皆様には、最先端技術の研究開発を通して、枚方から元気なものがくりに発信していただいていることに深く敬意を表します。
魅力と活力あるまちを築くためには、地域経



津田サイエンスヒルズ
まちづくり協議会
会長 佐々木 啓益

新製品開発、技術開発で更に津田サイエンスヒルズに活気を

の玄関口・関西国際空港や、関西文化学術研究都市へも軽快なアクセスを実現、質の高い情報の受発信、文化の育成、国際間の交流にも大きく寄与している。

新年明けましておめでとうございます。昨年来、資源高、サブプライム問題等もあり、世の景気動向は、はかばかありませんが、ここ津田サイエンスヒルズは元気な企業が集積している場所です。中には進出以来3年で売上規模を2倍に増やされる企業もありません。われわれ立地企業は、新製品開発、技術開発を更に磨きをかけて津田サイエンスヒルズ発で大阪、日本を元気にしてゆきたいと考えています。



津田ヒルズ揭示板



製造部グループ
5軸加工ユニット
井上 国士

「モノづくりコンプレックス」
株式会社 アススク



営業グループ
リーダー：高坂正顕

食品スライサー
専門メーカー
吉泉産業株式会社

吉泉産業株式会社は食品スライサー専門メーカーですが、我社のこだわり、独自の技術について紹介させて頂きます。こだわりの方針でありますが「手切りを機械化する」と言う事です。言葉で言うのは簡単ですが現実にはなかなか難しいことでもあります。熟練した職人さんに勝

てるのか？例えば鮭の切り身ですが、重量・形がポイントです。我社では断面積を測定して重量・形を合わせた機械を開発し高評価を頂いています。では職人さんに勝つたのか？勝つたと思いますがこれからは機械を進化させて圧倒的勝利を目指して行きます。

森下仁丹(株) 地鎮祭を行う 平成21年1月開所予定の新築工場の



地鎮祭で地元代表として挨拶する佐々木会長

大阪府が企業誘致を進めていた森下仁丹

の森下仁丹は1893年(明治26年)の創業。大阪府が企業誘致を進めていた森下仁丹の森下仁丹は1893年(明治26年)の創業。大阪府が企業誘致を進めていた森下仁丹の森下仁丹は1893年(明治26年)の創業。

津田サイエンスヒルズ杯 親睦交流ボーリング大会の案内

2月22日(金) 午後6時30分
枚方市牧野 松園ボウルにて

津田サイエンスヒルズも昨年の11月に榊枚方技研が進出立地企業も20企業となり、従業員数も8000人を超えています。

実施委員会
まぢづくり協議会として、各企業の従業員との親睦交流を図るため実行委員会を立ち上げ、昨年の11月14日に、6名の実行委員と協議を重ね、企画案ができましたので、お知らせします。

日時 2月22日
PM 6時30分
場所 枚方市牧野 松園ボウル
会場 松園ボウル
チーム数 58チーム
各企業より2+4チーム(1チーム1名)
総人数232名参加
ルール
団体戦 1位〜3位
個人戦男女別 1位〜10位

榊キタムラ 岡 大二郎
坂本精器 武田 全弘
香椎化学工業 松原 真弓
吉泉産業 麻芋 敏治
榊アスク 長倉健太郎
榊河内金属製作所
以上6名でお世話をします。

正式な案内状は1月末頃各企業に送付しますので、申し込みをよろしくお願いします。

ボーリングを楽しむ人々

府立産技研・テクノステージ和泉の 見学交流会に参加

昨年の11月20日南大阪のハイテク拠点、府立産業技術総合研究所とテクノステージ和泉企業団地の見学交流会に津田サイエンスヒルズまちづくり協議会も含む37名が参加。



和泉まちづくり協議会の説明を聞く佐々木会長らと和泉まち協との活発な意見交換を行う

この企画を主催した枚方六企業団地連絡協議会とひらかた地域産業クラスター研究会
によって行われ、津田ヒルズからは、吉泉産業(株)、(株)サウコーポレリション、(株)カナエ技研、植田工業(株)、(株)伸和製作所、(株)イオン工学研究所、(株)坂本設計技術開発研究所の7企業が参加
午前中は、府立産技研において、熱分析機器、プラスチック機械的特性試験機、環境分析、各種精密測定装置など10箇所において各担当者から説明を受けた。さらに府立南大阪技専校に立ち寄り見学した。
午後は、イノベーションプラザ大阪においてテクノステージ和泉まちづくり協議会の概要と取組事業の説明を受け、進出企業によるクリンデーでは年3回地域清掃活動を行っている。

シャープなど企業立地と 大阪経済の活性化について



昨年の10月24日、大阪大学自由電子レーザー研究施設において、まちづくり協議会経営者研修会を開催。次世代の物づくり拠点開催について、シャープなど企業立地と大阪経済の活性化のテーマで、府商工労働部企業誘致推進課の乾俊人課長から説明が

周辺道路の草刈りを 枚方市が作業を行う

(公園みどり課・道路補修課)

津田ヒルズの周辺歩行者専用道路の雑草が異常に伸び、通勤の従業員や地域のウォーキングを行っている人たちから歩きにくいとのクレームが寄せられていた。これらの声に対して、昨年11月14日枚方市の公園みどり課、道路補修課が草刈りの作業を行った。今後は年2回(6月・11月頃)に実施すること。



周辺住民の方々と勤務する従業員から道路が美しくなり歩きやすくなったとの話があった。熱心に作業する 現業の人たち

経営者研修会を 開催

あった。
府内の工場立地件数は、10年前の5倍に伸び、16年に47件、17年に45件、18年に41件となっている。最近の主な投資事例は、シャープ(株)の液晶テレビパネル製造など1兆円、旭硝子(株)のPPP用ガラス基板加工の360億円、三洋電機(株)二色の

【株イオン工学研究所】



代表取締役 西 裕之 氏

次世代の素材であるSICC(シリコンカーバイト)へ

「半導体業界などに對しイオン工学技術の実用化を目標」に、当初第3セクターとしてスタートしたが、現株イオン工学研究所。イオ

ン工学の中でも同社の携わるシリコンウエハーへの「イオン注入プロセス」は、最終的にパソコンや携帯電話などのICに姿を変え、社会に広まってきた。ここまでに至る約6000工程の

中でも、イオン工学技術がなければ、製品は完成してはいないと言っても過言ではない。「現在は次世代の素材であるSICC(シリコンカーバイト)への注入プロセスに取り組んでいます。これは従来のシリコンウエハーに取って代わるといわれています」と話すのは管理部

の日高秀尚部長。同社が保有するコーティング(成膜)技術は、アクセサリなど、日常生活で使用頻度が高いものにも応用され、抗菌やアレルギー対策にも一役買っている。成膜には、高真空化で蒸発を加熱し、溶解・蒸散させ、サンプルの表面で冷却し、金属皮膜を形成する真空蒸着方法

などがある。同社のキーワードは「イオン工学」「産学連携」「研究開発支援」の三つ。半導体関連マーケット以外にも、家電製品や自動車、産業用機器など、生活のあらゆるシーンで、これからの注目を浴びるに違いない。



津田ヒルズ立地企業を訪ねる 当エリアに居している企業の 業務内容や社会的意義を順次紹介

三晶(株)



中央研究所 所長 林 良純 氏

「カロブ」という植物を増粘剤として商品化

さとして知られる「カロブ」とこの言葉の語源となったといわれる「カロブ」という植物を増粘剤として商品化し、企業飛躍のきっかけを掴んだのが、三晶株式会社中央研究所。「商社としてスタート

し、今では技術力を活かしたオンリーワン企業を目指しています」と話すのは林良純・常務取締役研究担当。企業組織として津田ヒルズである。入居第一号でもある。創業当初より、欧米の先進技術を国内メーカーに紹介するとともに、その活用

に必要不可欠な添加剤助剤などの輸入販売もスタートさせた。現在は塗料や洗剤、歯磨き粉などの家庭用品から、ジャムやヨーグルト、うどんなどの食品、さらにガラスの飛散を防止するフィルムに至るまで、同社の技術が幅広く活かされるまで普及させることに成功した。



こちらの研究所の空調設備はエコアイスを採り入れ、実験用の過熱設備にもIHヒータを採用するなど、環境保護にも配慮されている。働く人にも、環境にも優しい同研究所から、さらに画期的な技術が生み出される日も遠くなさそうだ。

